

る。ある書簡（SAA 18 85）では、彼女は、帝国の南部に援軍を送ってほしいと要請されている。

また、ナキアは、エサルハドンが父の王位を継承する際に戦った兄弟戦争に関して預言を多数授かった。多くの場合、彼女の行動は息子のそれを反映している（Svård 2015: 48-61）。二通の書簡では、彼女は通常王のみが持つ特性を有していると讃えられている。彼女に送られた書簡 SAA 10 17 には、「我が主人、王の母君の裁断は神々のそのように決定的であります。祝福し賜うものが祝福され、呪い賜うものが呪われるのです」と書かれている。さらに、王の母君は「（洪水前の）アダパのように有能です」と讃えられている（SAA 10 24）。Sara Melville（1999: 91-92）は、新アッシリア宮廷におけるナキアの並外れた権威は、エサルハドンが母の立場を強くして、彼女がアッシュルバニパルの王位に至る道を固めやすくした結果だと論じた。それは確かに心に留めるべきことであるが、個人間の力関係はそう単純ではなかった。エサルハドンが母に送った次の書簡から彼らの複雑な関係を読み取ることができる。

王の母君への王の命令：私は元気だ。王の母君が健やかであられるように！私に書き送られたアモスという家臣について、私も王の母君と同じように命令する。言われた通りでよろしい。なぜハムナユは行くのか。（SAA 16 2）

書簡冒頭の「王の命令」という語句は、王のほうが自分の母親よりもヒエラルキーが高いことを明らかに示している。その後に王が母親に健康を祈っているフレーズが続くが、これは親書ではきわめて稀なことである。結局のところ、王は母親が望んだ通りのことをしている訳だが、彼女がそのように対処してくれるよう頼まなければならなかった事態から判断すると、彼女の権威は制限されていたと言えよう。個人間の力関係は、単なる命令

系統の序列だけでは説明できない。この母と息子の間には、尊敬とおそらく愛情を伴った互惠関係があったと考えられる (Svård 2015: 48-61)。

アッシリ人の観点からすると、ナキアが私利私欲のために行動していたかどうかは、ほとんどどうでもよいことであった。多方面にわたって、個人の利益は家の利益であった。息子の政治的アジェンダをナキアが援助したのは自明のことであったが、それは自分たちの一族のためでもあった。ナキアやサンム・ラマトのような王妃たちは「例外」と簡単に片付けられてしまいがちであるが、文書と図像学資料は王妃たちが新アッシリア時代を通して公で重要な役割を担っていたことを示唆している。ナキアやサンム・ラマトは基本的に他の新アッシリアの王妃たちと変わりはなく、例外的な状況が彼女たちの可視化に貢献したと考えられる。

4. 行政に携わるエリート女性

新アッシリア時代の 70 点以上の文書が、宮廷の管理運営に携わる女性たちに関連している。とは言え、そういった女性の数は男性のそれとは比べものにならないほど少なく、帝国の高官たちの中で最も重要な「有力者たち」の中に女性は一人もいない。文書にしばしば登場するのは、王妃の右腕、アッカド語でシャキントゥ (*šakintu*) というタイトルを持つ女性の監督長官である (54 点)。新アッシリア時代を通して、アッシュール、カルフ、ニネヴェの首都やティル・バルシップ、キリズイ・アルバイル、アディアン、ハウリナ、カサッパなどの地方都市に存在した 23 の異なる王妃の家組織でこの種の監督長官が雇われていたことが知られている。そして、相当な資金と大勢のスタッフがこの職位に就いていた女性たちの配下にあった。*šakintu* は、王妃の近辺で職務を遂行したのみならず、かなり自らの権限を用いてそれらの組織を管理運営していたと考えられる。王妃に経済的利益をもたらす都市に *šakintu* が所在し、王妃の財政を取り仕

切ったのであった。

šakintu が関与する文書の多くは、男女および子供の奴隷や土地の売買、物資の賃貸や売買といった商業取引を記録している。主たる事業の一つは織物生産で、製品の一部は王宮の消費にあてられ、残りはおそらく商取引にまわされたと考えられる。また、šakintu は、男女の管理運営スタッフと召使を配下に抱えていた。その中に lahḫennutu というタイトルを持つ女性たちがいた。彼女たちについてはほとんど記録がなく、実際の役割が何であったかがわからないので、正確な訳語を与えることはできないが、おそらく「女性経理官」がふさわしいのではないと思われる。女性書記にも言及が見られる。

5. 宮廷の女性たち¹⁰⁾

新アッシリア時代の王碑文で、sekretu（複数形 sekretū）という単語はしばしば征服地で捕えられた女性たちを指した。この名詞は sekêru「閉じ込める」という動詞から派生しており、sekretū が囚われの身であることの証拠とされてきた。しかし、語源のみを考慮にのけての解釈は不十分で、しかも、そのような「閉じ込め」が実際に何を意味するのか判然としない。文書はそのような女性たちが、首都の宮殿で生活していたことを示唆するが、閉じ込められていた記述はない。また、新アッシリア時代の宮殿における居住形態に関する考古学資料からも、それを裏付けるような形跡を見いだすことはできない。

おそらく、sekretū には多様な女性たち（征服された王たち宮殿の女性たちや女性人質、外国の王女たちの付き添いの女性たち、側室、王に関係する女性たち）が含まれていたと推測される。すなわち、王妃以外の宮殿に居住する高位の女性たちを意味したのではなかろうか（Melville 2004: 40）。そこで、私は sekretu を「宮廷の女性」と訳すことを提案したい。

この訳語は、sekretu と呼ばれた多様な女性たちを包含し、同時に彼女たちが高位であったことを意味するものである（Svård 2015: 105-109）。

明らかに（一部の）sekretū は貴重な囚われの女性たちと見なされており、王たちは碑文で自分の業績を誇るときそれに言及するほどであった。sekretū は、いわゆる「ニムルド・ワインリスト」にもしばしば登場する。このリストは、宮殿に居住する人々へのワインの割り当てを、おそらく年に一度の祭礼の機会に記録したものであろう。テグラトピレセル 3 世の治世（前 744-727 年）に年代づけられる文書もいくつかあるが、大半は、前 780 年代から 770 年代の約 10 年間にわたっている。ワインは奢侈品であったので、これらのリストに sekretū が登場するということは、彼女たちが高位であったことを示すものである。

当時帝国の首都であったニネヴェから出土した三点の文書からは、sekretū が金融・商業取引に積極的に関わっていたことが読み取れる。また、カルフの北西宮殿出土の一文書（SAA 6 89）によると、šakintu でアヒ・タリ（Ahi-tali）という名の女性が 4 マナの銀で奴隷を複数購入しているが、彼女はその一年前の文書 SAA 6 88 では sekretu と呼ばれている。sekretu から šakintu への出世が可能だったということは、sekretu が変更可能なステータスであったことを意味する。

王妃ヤバーと王妃ムリッス・ムカニシャト・ニヌアの墓に納められた碑文（Al-Rawi 2008: text nos. 1-3）にも sekretū への言及がある。後者は、後世のいかなる sekretu も、また、いかなる王妃も彼女の棺の中に埋葬されることを禁じている。前者はより明細で、王妃の位に座するものであろうと、また、王の寵愛する sekretu であろうと彼女の永遠の眠りを妨げてはならないことを記している。

sekretū を「ハーレムの女性たち」と訳すのはきわめて不正確であると言わなければならない。「ハーレム」という語は、これまで古代中東の歴史研究分野でしばしば説明もなく安易に用いられてきたが、それには特殊

な文化的意味合いが詰め込まれていて、そのまま転用できるものではない。「ハーレム」およびオリエントと女性に関する分析未了の仮定に対してなされた批判は正当である（Baharani 2001: 7-27, 161-179; Van De Mieroop 1999: 138-160; Asher-Greve 1997; Westenholz 1990）。

6. 結 論

新アッシリア帝国の史料の性格上、私たちが知り得るのは、なんらかの形で宮廷と関わりを持った女性たちである。そこでは王妃たちが最も顕著であったことはいうまでもないが、エリート女性のランクのなかでも彼女たちは独自の範疇にあったと思われる。王妃の活動は、多くの点で王のそれに類似し、他のエリート女性のそれとは根本的に異なっていた。後者の中では、宮廷の管理運営に携わり、宮廷で権威ある地位にあった *šakintu* と称される女性たちについては、比較的よく史料が残っている。女性官吏は男性官吏と同じような仕事をしており、エリート女性の社会的現実は一エリート男性のそれを模倣していたといえるであろう。結局のところ、社会的現実を左右するものとしては、性別よりもエリート階級に属しているか否かの方が重要であったようである。行政・財政・宗教・政策の分野で活動的とはいっても、そうした女性たちは極々少数であった。しかしながら、これを女性の「抑圧」の証拠とするのは問題の単純化にすぎないであろう。アッシリアの（例えば、強者と弱者の対立軸に沿う）ジェンダー・ロールについての価値判断よりも、帝国におけるジェンダーの構築過程を理解する試みのほうがより有意義であるように思われる。

注

- 1) この講演会は、2014年12月17日に中央大学多摩キャンパスで行われた。
- 2) このセクションについては、参考文献表の Svård forthcoming a を参照されたい。

- 3) 「オリエンタリズム」という考え方は Said (1978) によって提唱された。
- 4) 新アッシリア時代の女性たちに関する最近の包括的研究には Melvill 1999, Macgregor 2012, Svärd 2015 などがある。この講演の内容は Svärd 2015 に基づいており、詳細はそれを参照されたい。
- 5) Svärd 2015; Svärd forthcoming b を参照されたい。
- 6) http://www.baghdadmuseum.org/wmcd_index.htm#.
- 7) カルフの王妃墓については Oats and Oats 2001: 78-90 を参照されたい。
- 8) 王妃を描写した大型の図像は 3 点残されている (Macgregor 2012)。
- 9) Grayson 1996: 227 に基づく私訳。
- 10) Svärd forthcoming b; Svärd 2015: 105-120.

参考文献

- Al-Rawi, Farouk N. H., "Inscriptions from the Tombs of the Queens of Assyria." In: *New Light on Nimrud: Proceedings of the Nimrud Conference 11th-13th March 2002*, edited by J. E. Curtis, H. McCall, D. Collon, and L. al-Gailani Werr, London: British Institute for the Study of Iraq & The British Museum, 2008, pp.119-138.
- Asher-Greve, Julia, "Feminist Research and Ancient Mesopotamia: Problems and Prospects." In: *A Feminist Companion to Reading the Bible: Approaches, Methods and Strategies*, edited by Athalya Brenner and Carole Fontaine, Sheffield: Sheffield Academic Press, 1997, pp.218-237.
- , "Images of Men, Gender Regimes, and Social Stratification in the Late Uruk Period." In: *Gender through Time in the Ancient Near East*, edited by Diane Bolger, Gender and Archaeology 17, Lanham: AltaMira Press, 2008, pp.119-171.
- Asher-Greve, Julia and Deborah Sweeney, "On Nakedness, Nudity, and Gender in Egyptian and Mesopotamian Art." In: *Images and Gender: Contributions to the Hermeneutics of Reading Ancient Art*, edited by Silvia Schroer, Orbis Biblicus et Orientalis 220, Fribourg: Academic Press; Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 2006, pp.125-176.
- Assante, Julia, "From Whores to Hierodules: The Historiographic Invention of Mesopotamian Female Sex Professionals." In: *Ancient Art and Its Historiography*, edited by A. A. Donohue and Mark D. Fullerton, New York: Cambridge University Press, 2003, pp.13-47.
- Bahrani, Zainab, *Women of Babylon: Gender and representation in Mesopotamia*, London: Routledge, 2001.
- Bernbeck, Reinhard, "Sex/Gender/Power and Šammuramat: A View from the

- Syrian Steppe.” In: *Fundstellen. Gesammelte Schriften zur Archäologie und Geschichte Altvorderasiens ad honorem Hartmut Kühne*, edited by Dominik Bonatz, Rainer M. Czichon, and F. Janoscha Kreppner, Wiesbaden: Harrassowitz, 2008, pp.351-369.
- Grayson, Kirk, *Assyrian Rulers of the Early First Millenium BC II (858-745 BC)*, The Royal Inscriptions of Mesopotamia: Assyrian Periods 3, Toronto: University of Toronto Press, 1996.
- Guinan, Ann Kessler, “Auguries of Hegemony: The Sex Omens of Mesopotamia.” *Gender & History* 9, 1997, pp.462-479.
- Holloway, Steven (ed.), *Orientalism, Assyriology and the Bible*, Hebrew Bible Monographs 10, Sheffield: Sheffield Phoenix Press, 2006.
- Kinnier Wilson, J. V., *The Nimrud Wine Lists: A study of Men and Administration at the Assyrian Capital in the Eighth Century B. C.*, Cuneiform Texts from Nimrud 1, London: British School of Archaeology in Iraq, 1972.
- Macgregor, Sherry Lou, *Beyond Hearth and Home: Women in the Public Sphere in Neo-Assyrian Society*, State Archives of Assyria Studies 21, Helsinki: The Neo-Assyrian Text Corpus Project, 2012.
- McCaffrey, Kathleen, “Reconsidering Gender Ambiguity in Mesopotamia: Is a Beard Just a Beard?” In: *Sex and Gender in the Ancient Near East: Proceedings of the XLVIIe Rencontre Assyriologique Internationale, Helsinki, July 2-6, 2001*, edited by Simo Parpola and Robert Whiting, Helsinki: The Neo-Assyrian Text Corpus Project, 2002, pp.379-391.
- Melville, Sarah, *The Role of Naqia/Zakutu in Sargonid Politics*, State Archives of Assyria Studies 9, Helsinki: Neo-Assyrian Text Corpus Project, 1999.
- , “Neo-Assyrian Royal Women and Male Identity: Status as a Social Tool.” *Journal of the American Oriental Society* 124, 2004, pp.37-57.
- Nissinen, Martti, *Homoeotericism in the Biblical World: A Historical Perspective*, Translated by Kirsi Stjerna. Minneapolis, MN: Augsburg Fortress, 1998.
- Oates, Joan and David Oates, *Nimrud: An Assyrian Imperial City Revealed*, London: British School of Archaeology in Iraq, 2001.
- Pollock, Susan and Reinhard Bernbeck, “And They Said, Let Us Make Gods in Our Image: Gendered Ideologies in Ancient Mesopotamia.” In: *Reading the Body: Representations and remains in the archaeological record*, edited by Alison Rautman, Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2000, pp.150-164.

- Radner, Karen, *Ancient Assyria: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2015.
- Said, Edward, *Orientalism*, New York: Vintage, 1978.
- Stökl, Jonathan, "Female Prophets in the Ancient Near East." In: *Prophecy and Prophets in Ancient Israel*, edited by John Day, Proceedings of the Oxford Old Testament Seminar, New York: T & T Clark, 2010, pp.47–61.
- Svärd, Saana. forthcoming a. "Studying Gender: A Case Study of Female Administrators in Neo-Assyrian Palaces" In: REFEMA volume, edited by Cécile Michel and Brigitte Lion. Boston: De Gruyter.
- . forthcoming b. "Neo-Assyrian Elite Women" In: *Women in Antiquity*, edited by Stephanie Lynn Budin and Jean Macintosh Turfa. Routledge, London.
- . *Women and Power in Neo-Assyrian Palaces*. State Archives of Assyria Studies 23, Helsinki: The Neo-Assyrian Text Corpus Project, 2015.
- Svärd, Saana and Mikko Luukko, "Who Were The "Ladies of the House" in the Assyrian Empire?" In: *Of God(s), Trees, Kings, and Scholars. Neo-Assyrian and Related Studies in Honour of Simo Parpola*, edited by Mikko Luukko, Saana Svärd and Raija Mattila, Helsinki: Suomen Itämainen Seura, 2009, pp.279–294.
- Van De Mieroop, Marc, *Cuneiform texts and the writing of history*. London: Routledge, 1999.
- Westenholz, Joan Goodnick, "Towards a New Conceptualization of the Female Role in Mesopotamian Society." *Journal of the American Oriental Society* 110, 1990, pp.510–521.
- Winter, Irene, "Sex, Rhetoric and the Public Monument: The Alluring Body of Naram-Sin of Agade." In: *Sexuality in Ancient Art*, edited by N. Kampen, Cambridge: Cambridge University Press, 1996, pp.11–26.